

特集

実習記録再考

現在、入院日数の短縮化などの医療体制の変化、学生という立場でできることの少なさ、新カリキュラムやICTの活用といった複合的な要因により、実習での学びに大きな変化がもたらされています。本特集では、実習のなかでも「実習記録」に焦点を当て、その意義と目的をあらためて検討したいと思います。記録はあくまで記録であり、実践そのものではありません。ではなぜ、何のために記録があるのか。学生が多大な時間を割いて記録を書くのか。教員はその記録とどう向き合うのか。実習記録を考えることをとおして、実習のあり方、そして看護基礎教育そのものについて、再考することをめざします。



